



## 【 場 具 】再 考 お茶からプロジェクト管理まで

モノ作りのために「道具」があるなら、場作りのために「場具」という考えかたがあっても良いのではないか。というわけで場作り、あるいは場を支える仕組みをデザインという視点から考えてみることにした。

ところがコンピュータの世界には、すでに10年以上も前からこうした考えかたに近いものがあるという。グループウェアあるいは協調的行動支援ソフトウェアと言われるものだ。その典型として、スケジュール管理あるいはその発展形であるプロジェクト管理プログラムなどが挙げられる。ただ、これは「場」を活かす仕組みというより、あくまでも集団行動の合目的な行動を支援するという面が強いのではないかと思う。

プロジェクト管理では、全体を要素(タスク)に分解し、それぞれのタスクの依存関係、時系列上でどのような前後関係になるかを考えながら、それらに関与者に割り振る。マネージャーは設定されたゴールに向け、それぞれの関与者が決められた役割を時間軸上で問題なくこなし、与えられたリソースを効率よく利用し、プロジェクトが予算を超過しないよう目を光らす。個々人は若干の許容範囲はあるものの、固定的な役割を割り振られ、決められたプロセスを淡々とこなすことを期待される。そういう意味で、こうしたプログラムは関与者全員が最大効率を目指して組織的に行動するための支援装置ということになるだろう。

いっぽう、コンピュータにこだわらず、このコラムで何度となく取り上げている協創という側面から「場」を考えると、まったく対極的なものが思い浮かぶ。「お茶」という機会が果たしている機能である。といっても、「茶道(タオ)」になってしまっただけ、ちょっと意味合いが変わってくる。ここで言いたいのは、それよりもインフォーマルな出会いと語らいの「場」の機能だ。

お茶そのものは触媒的役割を果たすに過ぎない。だが、お茶の周りには、異なる経験や視点を持つ「個」が出会うことによって新たな結合の場が生まれる。さまざまな要素=さまざまな見方を持つ人々の出会い、そこに生まれる新しい意味の結合、価値の創出というような文化的な仕組みが機能していく(もちろん、お酒で同じ効果を実現することもできるだろうが、逆に作用してしまうこともあるので注意を要する)。

さて、ネットワークの爆発的普及とともに、これまで場所や時間的な制限の中に留め置かれ、既存の枠組の中に安住せざるを得なかった人々の関係が変わりつつある。あたかもネッ



トワークが攪拌装置となって、人や組織の結び付きの流動化をうながしているかのようだ。

だが、ヒトは不安定な液状化した関係のなかで無為に時間を過ごしていけるものではない。ネットワークによって社会関係が分離し、流動化を繰り返しているのも、新たな結合によってその時々、アドホックな最適化を実現するためなのだ。ネットワーク時代とは、実は流動化と新結合という不断の革新が結合する忙しい時代でもあるのだ。

ネットワークというインフラが可能にする新しい結合の可能性を活かす仕組み作りを考える際に、「場」の持つインフォーマルな情報協創機能ははずすわけにはいかないだろう。また、その「場」から生まれた可能性を現実のものとするために、より小さな組織的行動でより大きな力を発揮するような、効率的組織運営の仕組みが求められるのも確かである。

このように、わたしたちが目標として掲げなければならないのは、場を通じて可能になる出会い、新たな意味の結合であり、またそこに生まれる価値を実際に社会的活動に結び付けていく組織化である。変化の激しい時代、場具と道具、この両側面を組織や社会の中に実装していくことが必要なのだ。

デザインの世界ではこれまで、構想より造形、課題探索的表現より合目的実用性という方向に目が向けられがちだった。だがこの時代においては、モノの形へのこだわりを留めず、ビジョン創出と効率的実現のための組織化という、より大きく動的な「場」で新たな役割を果たすことを迫られているのである。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)